

幾何学概論第二 (MTH.B212)

0: 準備

山田光太郎

`kotaro@math.titech.ac.jp`

`www.math.titech.ac.jp/~kotaro/class/2020/geom-2/`

東京工業大学理学院数学系

2020年12月03日

事実

- ▶ \mathbb{R}^2 の領域 U 上で定義された C^∞ -級写像 $\rightarrow C^\infty$ -級関数

$\frac{\partial p}{\partial u}$

$$p: U \ni (u, v) \mapsto (x(u, v), y(u, v), z(u, v)) \in \mathbb{R}^3$$

が、 U の各点で p_u と p_v が一次独立という性質を満たしているならば p は「なめらかな曲面」を与える。

- ▶ \mathbb{R}^3 の領域 D 上で定義された C^∞ -関数 $F: D \rightarrow \mathbb{R}$ に対して $S := F^{-1}(\{0\}) \neq \emptyset$ とする。このとき $dF = (F_x, F_y, F_z) \neq 0$ が S の各点で成り立つなら S は「なめらかな曲面」である。

$$F(x, y, z) = x^2 + y^2 + z^2 - 1$$

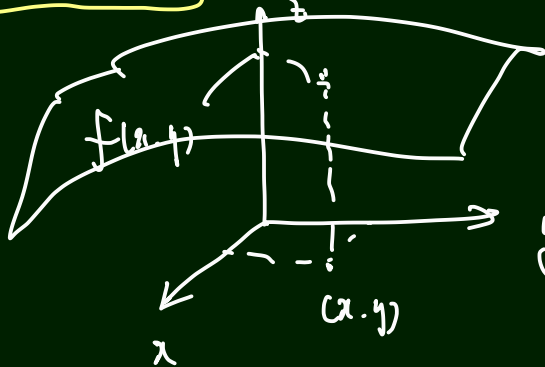
$$S = F^{-1}(\{0\}) = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3; F(x, y, z) = 0\}$$

関数のグラフ

\mathbb{R}^2 の領域 W 上で定義された C^∞ -級関数 $f: W \rightarrow \mathbb{R}$ のグラフ

$$\{(x, y, f(x, y)); (x, y) \in W\}$$

は「なめらかな曲面」である。



graph of f

球(円)



関数の

グラフ =
グラフ

逆写像定理

定理 (逆写像定理)

\mathbb{R}^2 の領域 U で定義された C^∞ -級写像

$$F: U \ni (u, v) \mapsto F(u, v) = (\xi(u, v), \eta(u, v)) \in \mathbb{R}^2$$

のヤコビ行列式

Jacobian

Jacobian matrix

$$\frac{\partial(\xi, \eta)}{\partial(u, v)} = \det \begin{pmatrix} \xi_u & \xi_v \\ \eta_u & \eta_v \end{pmatrix} = \xi_u \eta_v - \xi_v \eta_u$$

が $a \in U$ で 零でない とすると, a の近傍 V で次を満たすものが存在する:

- ▶ $F|_V: V \rightarrow \mathbb{R}^2$ は単射,
- ▶ $(F|_V)^{-1}: F(V) \rightarrow U$ は C^∞ -級.



逆写像定理

系

\mathbb{R}^2 の領域 U から \mathbb{R}^3 への C^∞ -級写像

$$p: U \ni (u, v) \mapsto p(u, v) = (x(u, v), y(u, v), z(u, v))$$

が

$(a, b) \in U$ において $p_u(a, b)$ と $p_v(a, b)$ は 一次独立

を満たすならば、 (a, b) の近傍 V と \mathbb{R}^2 の領域 W 上の C^∞ -級関数 $f: W \rightarrow \mathbb{R}$ が存在して、

像 $p(V)$ は f のグラフ $\{(x, y, f(x, y)); (x, y) \in W\}$ と 合同

である。

黑板

$$p_u = (x_u \ y_u \ z_u)$$

$$p_v = (x_v \ y_v \ z_v)$$

• p_u と p_v が 122 形式

$$\Leftrightarrow \begin{vmatrix} x_u & x_v \\ y_u & y_v \end{vmatrix} \neq 0 \quad \textcircled{1}$$

$$\vee \begin{vmatrix} y_u & y_v \\ z_u & z_v \end{vmatrix} \neq 0 \quad \textcircled{2}$$

$$\vee \begin{vmatrix} z_u & z_v \\ x_u & x_v \end{vmatrix} \neq 0$$

$$\begin{pmatrix} x_u & x_v \\ y_u & y_v \\ z_u & z_v \end{pmatrix} \quad \textcircled{1}$$

$(u, v) \mapsto (x, y)$ が 1対1対応 (非退化)

$$(u(x, y), v(x, y)) \xrightarrow{C^{\infty}} (x, y)$$

$$p(u(x, y), v(x, y)) = (x, y, z(u(x, y), v(x, y)))$$

$$\textcircled{2} \quad (y, z) \mapsto (u, v) \quad x = f(y, z)$$

正則曲面

定義

領域 $U \subset \mathbb{R}^2$ 上で定義された C^∞ -級写像

$$p: \mathbb{R}^2 \supset U \ni (u, v) \mapsto p(u, v) = (x(u, v), y(u, v), z(u, v)) \in \mathbb{R}^3$$

の特異点とは *singular point*

*逆写像定理の仮定
が成り立たない*

$p_u(u_0, v_0)$ と $p_v(u_0, v_0)$ が一次従属となるような点 $(u_0, v_0) \in U$

のこと。

写像 $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ が特異点をもたないとき、

正則にパラメータ付けられた曲面, 正則曲面

という。

この講義で扱う対象

グラフは正則曲面

例

領域 $W \subset \mathbb{R}^2$ 上の C^∞ -級関数 f のグラフ

$p: W \ni (x, y) \mapsto p(x, y) = (x, y, f(x, y)) \in \mathbb{R}^3$ は正則曲面である.

$$\begin{aligned} p_x &= (1, 0, f_x) && \text{1つだけ} \\ p_y &= (0, 1, f_y) \end{aligned}$$

事実

写像 $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ が正則曲面ならば, 各点 $a = (u_0, v_0) \in U$ の近傍 V で次を満たすものが存在する:

$p|_V$ の像 $p(V)$ は関数 $f(x, y)$ のグラフと**合同**である.

陰関数定理

定理 (陰関数定理)

\mathbb{R}^3 の領域 U 上の C^∞ -級関数 $F: U \rightarrow \mathbb{R}$ が、
 $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3) \in U$ で (a) $F(\mathbf{a}) = 0$; (b) $F_z(\mathbf{a}) \neq 0$ を満たすとき、
 \mathbf{a} の近傍 V と $(a_1, a_2) \in \mathbb{R}^2$ の近傍 W 上の C^∞ -級関数 f が
存在して $F^{-1}(\{0\}) \cap V = \{(w, f(w)); w \in W\}$, とくに
 $F(w, f(w)) = 0 (w \in W)$ が成り立つ。

(陰) $F(x, y, z) = 0$ $\begin{cases} F_z(x_0, y_0, z_0) \neq 0 \\ F(x_0, y_0, z_0) = 0 \end{cases}$

(x_0, y_0, z_0) の近傍 \rightarrow

\Leftrightarrow $z = f(x, y)$ (陽)

陰関数定理

系

\mathbb{R}^3 の領域 U の C^∞ -級関数 F が, $a \in U$ で $F = 0$,
 $dF = (F_x, F_y, F_z) \neq 0$ を満たすならば, a の近傍 V , \mathbb{R}^2 の領域
 W , C^∞ -級関数 $f: W \rightarrow \mathbb{R}$ が存在して, $F^{-1}(\{0\}) \cap V$ は f の
グラフと合同である.

$$\{(x, y, z) \mid F(x, y, z) = 0\}$$

$F_z = 0 \Rightarrow$ 座標軸 a 方向に $\lambda \neq 0$ の
(合同系統)

正則曲面

例

C^∞ -級関数 $F: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対して $S := F^{-1}(\{0\}) \neq \emptyset$ かつ S の各点で $dF \neq 0$ ならば, 各 $P \in S$ の近傍 V が存在して $S \cap V$ は正則曲面の像である.
このとき S 自身を正則曲面ということもある.

例

正の整数 m に対して $F(x, y, z) := x^m + y^m + z^m - 1$ とすると

$$S := F^{-1}(\{0\}) = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3; F(x, y, z) = 0\} \neq \emptyset$$

は正則曲面である.

$$(1, 0, 0) \in S$$

$$dF = m(x^{m-1}, y^{m-1}, z^{m-1}) \neq 0 \text{ on } S$$
$$\Leftrightarrow x = y = z = 0$$

接ベクトル空間

定義

正則曲面 $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ の点 $(u_0, v_0) \in U$ に対して

$$\underline{dp(T_{(u_0, v_0)}\mathbb{R}^2)}$$

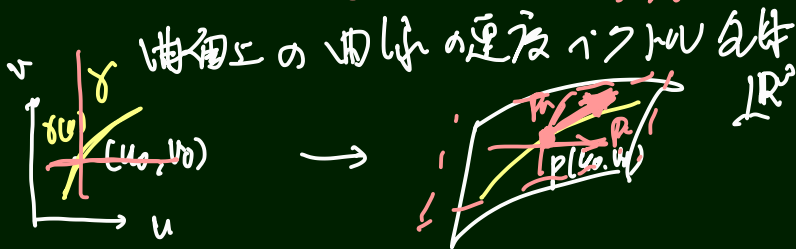
$$:= \left\{ \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} \boxed{p \circ \gamma(t)}; \gamma \in C^\infty((-\varepsilon, \varepsilon), U), \gamma(0) = (u_0, v_0) \right\}$$

多様体論

を p の点 (u_0, v_0) における接ベクトル空間という。

曲面 $K = p(u_0, v_0)$ の

接ベクトル空間



接ベクトル空間

補題

正則曲面 p に対して

$$dp(T_{(u_0, v_0)}\mathbb{R}^2) \\ = \text{Span}\{\underbrace{p_u(u_0, v_0)}_{\text{赤い波線}}, \underbrace{p_v(u_0, v_0)}_{\text{赤い波線}}\} = (p_u(u_0, v_0) \times p_v(u_0, v_0))^\perp.$$

とくに、接ベクトル空間の次元は 2.

ベクトル積.

法線空間

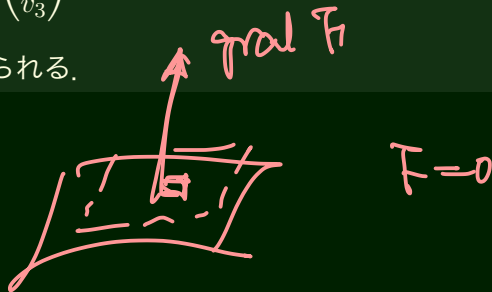
接ベクトル空間

補題

正則曲面 $S = F^{-1}(\{0\})$ 上の (a, b, c) における接ベクトル空間は

$$\begin{aligned} (\text{grad } F(a, b, c))^\perp &= (F_x(a, b, c), F_y(a, b, c), F_z(a, b, c))^\perp \\ &= \left\{ \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \\ v_3 \end{pmatrix} ; v_1 F_x(a, b, c) + v_2 F_y(a, b, c) + v_3 F_z(a, b, c) = 0 \right\} \end{aligned}$$

で与えられる.



黑板